

〔第46回〕

NCGG-R1 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

細胞老化による病態増悪化機構の解明

老化機構研究部 免疫研究室

杉本 昌隆 室長

2019年12月10日(火) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

ヒトを含む哺乳動物の細胞は、ストレスを受けると細胞老化を起こす。細胞老化は古くから、細胞自律的がん抑制機構として重要な役割を持つことが知られていた。一方、細胞老化は様々な負の側面を持つことが明らかとなり、近年では特に組織の老化や加齢性疾患の発症との関連が注目を集めている。

本研究室では最近、独自に樹立した老化細胞を可視化・除去可能なマウスを用いて、細胞老化が呼吸器の老化を引き起こす一因子であることを突き止めた。さらに細胞老化依存的な組織環境の変化は、肺組織の老化だけでなく様々な呼吸器疾患を増悪化させることも明らかになり、老化細胞が呼吸器疾患に対する有効な創薬標的であることが示唆された。本報告会では、細胞老化が組織病態を増悪化させる機構を中心に、これまでに本研究室で得られた知見について紹介し、今後の展望についても議論したい。

座長：竹下 淳

連絡先：副所長室(内線5002)